

油症患者さんにおける死因調査の結果について

1968年に油症事件が発生してから40年間が経過し、この間、油症患者さんがどのような死因で亡くなる傾向があるかについて、研究が進められてきました。油症事件発生後19年間観察した結果では、男性の油症患者さんでは、肝がんや肺がんのリスクが、一般の人よりも高い傾向があることが指摘されました。さらに、23年間および29年間観察した結果では、男性の油症患者さんでは、肝がんや肺がんのリスクは以前よりも低下しているものの、一般の人よりも高い傾向が続いていることが報告されていました。しかし、女性の油症患者さんでは、今までに明らかな傾向は特にみられておらず、油症患者さんの死亡リスクを明らかにするためには、さらに長い年月に基づく調査が必要であることが指摘されました。

そこで今回、私たちは、油症患者さんの生存状況について、さらに観察期間を延ばして調査し、事件発生当初から40年の間に、油症患者さんの亡くなられた原因が一般の人とどのくらい異なるかについて解析を行いました。

調査の対象は、2007年12月末までに認定された全ての患者さん1,918名です。油症患者さんの生存状況の調査については、厚生労働省、油症研究班、行政機関、油症相談員の皆さんに御協力をいただき、実施することができました。また、死亡された油症

患者さんの死因については、総務省と厚生労働省の許可を得て、人口動態統計テープと照合することで調査を行いました。これらの情報から、油症患者さんは全国の一般の人と比べて死亡のリスクが何倍になるかを解析しました。

その結果、男性の油症患者さんでは、肝がんのリスクが一般の人の約1.7倍、肺がんは約1.6倍と少し高い値でした。以前、油症事件発生から19年間観察した結果では、男性の肝がんのリスクは約5.6倍、肺がんのリスクは約3.3倍ありましたが、今回の40年間観察した結果では、それぞれのリスクが減少傾向にあることがわかりました。一方、女性の油症患者さんでは、これまでの研究結果と同様、全国の女性と比べて、特に異なった傾向はみられませんでした。これらの結果から、油症患者さんの死亡リスクについては、一般の人の死亡リスクに近づいていることが示唆されます。

男性の油症患者さんでは、肝がんや肺がんの死亡リスクがどうして高いのかについては、さらに詳細な調査と今後の観察が必要となります。また、女性の油症患者さんについては、現在は特徴的な変化はみられませんが、引き続き今後の観察が不可欠です。加えて、まだ不明なことも多く、今後もさらに調査を続けていく必要があるものと考えています。

問い合わせ先：福岡県保健環境研究所

吉村 健清（よしむらたけすみ）、小野塚大介

〒818-0135 福岡県太宰府市向佐野39

TEL 092-921-9940（代表）／FAX 092-928-1203